

5歳児健康診査と母親教育の必要性について

千葉良¹ 池田知行² 本郷嘉男³

要旨：

幼稚園および保育園児に対して、予備調査に基づきアンケートを作成し、本調査を施行した。その結果から小学校入学前の5才前後の時期に健康診査とその母への入学に関する母親教育の必要性を認めた。

目的：

現在、行政が施行している乳幼児健診は、乳児期健診、1歳6カ月健診および3歳児健診であるが、その後の発育発達や育児について何ら問題なく小児は健全に育成されているかどうか、母親にアンケート調査し問題点を検討した。

対象および方法：

対象は仙台市およびその周辺の地区に在住する0歳から6歳の小児で、幼稚園および保育園児である。調査は予備調査とそれに基づいた本調査を行なった。予備調査は昭和60年、61年および62年の春に、計1,627名に行なわれ、その結果から頻度の多い順に母親が困っていることまたは悩んでいることの項目を選び、アン

ケートを作成した。このアンケートで昭和63年10月、3歳(20名)、4歳(113名)、5歳(160名)および6歳(97名)の計390名に本調査を行なった。

結果：

1. 予備調査について

1,627名中、訴えのある例は513名(32%)

であった。

訴えは年度によっても差があり、年々頻度が少なくなる傾向がみられる。また年齢によっても差がみられ、他の年齢と比較して5歳児では訴えの頻度が少なかった。

2. 本調査について

1) 各項目の可能な割合を表に示した。

本調査の項目順は予備調査の頻度の多い順になっているが、本調査の結果とは、項目1好き嫌い、2-4友達との関係、5アレルギーと同じ順位であるが、下位になるとかなりのちがいがみられる。

2) 3歳児から6歳児にかけて頻度が多い項目全体的に頻度が多い項目では、1位は好き嫌い

1 仙台赤十字病院小児科、2 仙台市池田小児科、3 仙台市本郷医院

(偏食)がある54%、2位アレルギーの病気42%、3位食べるのがおそい39%、4位行動がのんびりしている37%、5位かぜをひきやすい34%、6位言葉が悪い33%、7位泣き虫で気が弱い29%、8位心配ごと26%、9位友達が少ない22%、以下は20%以下であった。

3) 3歳児で頻度が最も多く、その後徐々に少くなる項目では、1位が甘えが目立つ53%、2位が我慢ができないほうである45%と園に行きたくないという行ってしまうとよい45%、3位がアトピー性皮膚炎40%と夜まだおねしょする40%、4位がわがままで困る32%、5位が遺尿症25%と就眠儀礼25%、6位が中耳炎20%である。以下10%以下であった。

4) 6歳児で頻度が一番多くなった項目では、1位は短気で怒りやすい38%、2位は食事は少食33%と落ち着きがない33%、3位はやせている28%、4位は入学することでの心配ごと23%、5位は指しゃぶりや爪かみのくせ21%、6位はご挨拶ができない20%、7位はいじめられる15%、8位気管支ぜん息14%と続いた。

5) 幼児の母の困りごと、悩みごとは390名中74名19%であった。病気や異常(A)が1位で32%、個人の能力、例えば授業など学校生活についていけるか(B)が2位で28%、社会性または環境への適応性(C)が3位で21%、その他は10%以下で、4位が食事(D)、5位が言葉(E)、6位が家庭での指導や対応に(F)ついてであった。

6) 小学校に入学する5歳児と6歳児の母の心

配ごと、悩みごとは、1位C50%、2位D17%、3位Aとその他の心配(G)14%、4位B+F9%であり、幼児の母とは差が目立つ。来年少学校に入学する5歳児と6歳児は181名で、33名18%の母になんらかの訴えがあった。

考察：

困りごと、悩みごとを訴える母の頻度は年度によっても、年齢によっても、予備調査と本調査によっても、差があった。

これらのことは母の訴えは調査形式によっても、その困りごとや悩みごとの程度を指定することによっても違いがでてくることを示している。今後調査方法を検討し、母が手助けを必要とする困りごとや悩みごとを吸い上げる方法を確立し、全国的に調査することが必要であろう。

幼児の母が心配ごとや悩みごとを持っている頻度(19%)と来年入学する児の母の心配ごとや悩みごとの頻度(18%)は殆んど同じ割合であるが、その内容を比較してみるとかなりの相違がある。幼児の母ではA32%、B+F31%、C21%、D9%、G0%と比べ、来年入学する児の母ではA14%、B+F9%、C50%、D17%、G14%である。入学前の母では幼児の母と比べて病気とか異常に関する心配ごとおよび個人の能力や家庭での指導対応に関する心配ごとは少なくなるのに反し、社会性や環境への適応性に関する心配ごとや給食に関する心配ごとが多くなっていた。また、母子家庭による通学上の悩み、転勤および学校への要望がみられている。これらのことより幼

児期から学童期に移行する時期（5才前後）の母に学校生活を理解させることや、入学する前の心構えと入学後の生活指導など母親教育の必要性が認められる。

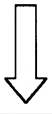
また頻度が少なくなるとは言え、病気や異常に関する心配は、その内容からみると、幼児に対して健康診査をし、疾患を確認し、学校生活に円滑に入れるように適切な指導が必要である。

以上のように、入学前5才児前後の幼児に対し、健康診査をし、学校生活に円滑に入れるように指導すると共に、その母に学校生活や入学前の心構えなど教育することおよび相談することは必要であるが、更に母（保護者）は心配してないが、気にしてないけれども、母（保護者）が心得ておかねばならないこともあるので、小児保健関係者および学校関係者の意見を今後集約し、母親教育にとりいれることも必要であろう。

表 困りごと、悩みごと（％）計390名

項目	(歳)	3	4	5	6	計
1 好き嫌いがある		50	57	53	53	54
2 友達と遊べない		10	12	8	7	9
3 友達を作れない		10	16	11	6	11
4 友達がすくない		16	28	23	17	22
5 アレルギーの病気		40	44	41	40	42
1) 気管支ぜんそく		6	6	11	14	10
2) アトピー性皮膚炎		40	39	32	28	33
3) アレルギー性鼻炎		10	5	8	9	7

6 指しゃぶり、爪かみ	10	21	20	21	20
7 少食（食べない）	15	35	26	33	30
8 夜尿症	40	28	25	10	23
9 遺尿症	25	12	3	2	7
10 わがまま	32	31	23	20	25
11 我慢できない	45	34	28	20	28
12 短気で、怒りやすい	26	36	34	38	35
13 就眠儀礼	25	24	14	14	18
14 園に行きたくない	45	29	14	16	20
15 行動がのんびり	30	38	39	35	37
16 不器用	17	21	18	12	18
17 泣き虫で、気が弱い	16	35	30	23	29
18 かぜをひきやすい	30	42	30	34	34
19 肥満	0	4	2	5	3
20 肥満になるのが心配	15	11	13	13	12
21 食べるのがおそい	40	43	34	42	39
22 甘えが目立つ	53	46	38	31	39
23 寝付きが悪い	10	7	5	9	7
24 言葉が悪い	25	39	30	33	33
25 発音が気になる	5	5	4	4	4
26 落ち着きがない	15	28	23	33	26
27 帰宅後八ツ当たり	5	7	5	9	7
28 ご挨拶できない	5	15	14	20	15
29 いじめる	10	11	4	13	8
30 いじめられる	0	11	11	15	11
31 中耳炎	20	13	9	14	12
32 反対こう合	11	6	11	6	8
33 やせ	10	22	21	28	22
34 ひきつけ	5	2	1	1	1
35 心配ごと	15	24	16	20	19
36 入学での心配	0	1	7	23	9



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要旨:

幼稚園および保育園児に対して、予備調査に基づきアンケートを作成し、本調査を施行した。その結果から小学校入学前の5才前後の時期に健康診査とその母への入学に関する母親教育の必要性を認めた。